

地域別勉強会助成制度実施報告

ミニ小祝塾

⑩関東ブロック編

Report

明野早川グループ (4月3日)

●何度も参加して実感

山梨自然塾・研有会・あゆみの会・早川グループから16名の参加。今回の小祝塾には、はじめての参加者から何度も参加している人と、それぞれレベルの差があり小祝さんもお疲れさまでした。初めての人も居るといことで、基本的な植物の生理の話から始まりました。果樹の方が居ましたので果樹に少しウエイトを置いた話になりましたが、いままでで1番わかり易かった様な感じでした。私がわかり易いと感じたのは、小祝塾に何度も参加しているからかもしれませんが、今回、主に小祝さんをお願いしたのは、苦土、CEC、石灰苦土カリ比、施肥設計等。少し欲張りしましたが、パソコンを使っでの施肥設計まで一応できました。

あゆみの会の丸山さんがビデオを撮ってくれましたので、一度見てください。大変わかり易い講義でしたのでダビングして配布しても良い位の内容のような気がします。

報告：早川宗延さん



パソコンを使った施肥設計の精度を、より高めています。(明野早川グループ)

明野に集まった明野早川グループの生産者一同、何かを掴んで発表した面持ち。



くらぶち草の会 (4月4日)

●施肥設計で土づくり

<午前の部>チンゲンサイとハウレン



「土壌分析を現場で見ながら話を聞くから実感できる」(くらぶち草の会)

ソウを栽培している各雨よけハウスの作物観察と、その土壌の状態の説明を小祝さんから受け、Dr.ソイルによるミョウガ畑の土壌分析の実演が行なわれた。雨よけハウスはどちらも苦土が不足傾向なのに対して、リン酸と石灰は過剰傾向。石灰・苦土・カリのミネラルバランスをとると同時に、リン酸・石灰過剰を緩和するために、過剰要素の少ない堆肥材料を用いる事。微量元素が栄養素吸収のために重要な働きをする事。また、ハウス内では、微生物を働かせて、硝酸態窒素を抑えるために、常にある程度の水分状態を維持する必要性の説明を受けた。ミョウガ畑は各肥料要素が欠乏していて、土壌分析を元にした施肥設計が必要とされた。

<午後の部>屋内において、小祝さんによる先進農家の圃場の状態の説明と、パソコンを用いた施肥設計の実演、有機農業の理論的基礎についての講義等。よい堆肥とは、水分率の問題



「葉の色ツヤ、水滴の弾き方、根の張りくあい等から状態を見る」(くらぶち草の会)

だけではなく、原材料のC/N比、適度にコントロールされた好気性発酵が重要だとされ、そのためにエアレーションの設備が推奨された。また、有機物を原料とした堆肥を施用することにより、土壌の物理化学性が改善される理論の論拠や、ミネラルバランスおよび微量元素の重要性の説明が、視覚教材などを用いて解説された。

報告：丹羽牧人さん

小祝塾その後・・・

Q. 勉強会から数ヶ月たってみていかがですか？

A. たいへん勉強になりました。果樹を育てていますが、特に植物生理については今まで聞いたことがない内容の話が多く、とても参考になりました。今は施肥には発酵鶏糞を使用していますが、それに変わるものも探しています。あとは山の落ち葉や雑草など有機質の素材も使用しています。同じ品種の果樹でも、苦土の欠如があってもよく育つものと、育たないものの個体差があり、例えば巨峰などは、苦土欠が出やすいのですが、それでもその影響がでない個体もある。これは遺伝子のバラつき。施肥設計を参考にしながら個体差をうまく利用できたらと思います。なので“設計”と自分の“経験”“個体差”のバランスをうまく掛け合わせて、やっています。あとは、その土地の土の特性があるので、それを生かして作物を仕組んでいくことも大切。施肥設計という細やかな部分と、環境や土地の特性といった大きな部分、両方のバランスが大切ですね。

山梨自然塾の前島和芳さん